

# 電源立地地域温排水対策事業調査

## エゴノリ養殖試験

### (要 約)

桐原 慎二・高山 治・山中 崇裕\*

温排水を漁業生産に利用する技術の開発を目的に、昭和63年度から平成3年度にかけて4年間、白糠地先においてエゴノリ (*campylaephora hypaeoides*) の養殖技術を検討してきた。なお、詳細については『平成3年度電源立地地域温排水対策事業調査報告書(東通地点)』として報告した。

これまでの実施した試験項目は、表1に総括したとおりである。項目毎の結果は以下に要約するが、本試験を通じて、白糠地先での温排水を利用したエゴノリ養殖は可能であると考えられた。

① **人工採苗技術**：室内培養により、多量の果胞子を獲得するため、雌雄配偶体、四分胞子体の生長、成熟に及ぼす温度、光周期の影響を検討した。この結果、生活史の各ステージにおいて温度、光条件を管理することにより、採苗に必要な果胞子を得ることができた。

② **中間育成技術**：十分な収量を得るためには、春期にエゴノリ四分胞子体を得る必要がある。このため、秋期に沖出ししたエゴノリ人工種苗の生長特性を調べた結果、冬期間に生長が認められた。

③ **養成技術**：エゴノリ人工種苗と天然に生育するエゴノリ四分胞子体を、着生基質とした網地に結着して養成した。その結果、5月に沖出ししたいずれの種苗とも、7月まで生長した。収量は、養成水深が浅所ほど、また、基質の目合いが検討した範囲では大きいものほど高かった。

表1 エゴノリ養成試験の実施結果の概要

項目 \ 年度	63年度	元年度	2年度	3年度
人工採苗技術	四分胞子体、配偶体の培養特性人工採苗技術の開発			
中間育成技術				秋期の人工種苗時期別沖出し試験
養成技術	人工種苗の生長特性の検討 養成水深の検討 養成基質の検討	天然採苗の生長特性の検討 養成水深の検討	天然採苗の生長特性の検討 養成密度の検討	

\*：むつ地方水産改良普及所